



子供に個性を押しつけてはいけません

個人的な深い幸せは個性を無視しては得られません。一方、社会で幸せに暮らしていくためには多くの人と共通した感情（共感力）を感じ取る力も欠かせません。

Q 5歳までの子供にふさわしい絵本はどちらのタイプ？

a 子供の自由を目覚めさせる個性的な表現の絵本

b 子供が社会とのつながりを体得できる個性の抑えられた絵本

A 正解は b 個性の主張は共感力の発達と相反します

自由や個性は子供の特権と考えがちです。しかし、5歳までの子供には問題があります。人間にとって個性は共感力とともに欠かせませんが、両者は矛盾し、個性を主張しすぎると社会性が欠けます。

子供脳は一所懸命に共感力を育てている

5歳までの子供脳は外部に強く興味を持ちます。外部との学習を通して自分の個性と自分以外の社会性との調和点を探りながら共感力を育てています。この時期に大人が不用意に個性を強要すると、せっかくの努力を邪魔することになります。

共感力は社会と個性を調和させる力

人は一人一人が全く共通しない個性を持っています。静かで優しい行動に心が落ち着く人、元気、陽気な人、こだわりの強い人、様々です。しかし、どの人も社会的シーンでは共通の感情が生まれています。つまり自分の個性と社会的シーンを調和させる共感力を働かせているのです。

個性は大人になって深まる

cはピカソが15歳の時、dは26歳で描きました。成人してから個性が花開いた例です。社会性を身につけていない子供期に個性的表現を追求すると、大胆で自由に見えたとしても根の浅い表面的な表現になります。自己内での葛藤や矛盾を経験して個性は深まっていくのです。大人になってからでも決して個性が色褪せることはありません。



初聖体拝領 1896



アヴィニョンの娘たち 1907

視覚デザイン研究所の絵本は個性的表現を抑えています

子供脳を育てるための絵は極力デフォルメ表現を抑え、絵の質そのものを高めています。上質な描写が子供脳との会話を深くするからです。

